

自動運転レベル4に対応し、障害物回避機能などを 搭載した新型自動運転EV「MiCa」を日本に導入

～2023年夏以降に公道で走行予定～

ソフトバンク株式会社の子会社である BOLDLY 株式会社（ボードリー、代表取締役社長 兼 CEO：佐治 友基、以下「BOLDLY」）は、自動運転シャトルの設計・製造を行うエストニア共和国の Auve Tech（オーブテック、CEO：Johannes Mossov）が 2022 年 10 月に発表した、自動運転レベル 4 対応の新型自動運転 EV「MiCa（ミカ）」を世界で初めて*1 購入し、日本に導入します。今後、実証走行を進めるとともに、関係省庁から必要な許認可を取得し、2023 年夏以降に公道を走行できるようにする予定です。また、「MiCa」の日本における唯一の販売代理店として、自治体や企業への納入を進め、自動運転技術の活用による社会課題解決を推進します。なお、2023 年 5 月 16 日に茨城県の境町が「MiCa」の購入に関する覚書を BOLDLY と締結して、2023 年中に導入する予定です。

日本では、少子高齢化に伴う運転手不足や廃線などの公共交通に関する課題が深刻化する中、その解決策として、自動運転技術を活用した持続可能な公共交通の実現が求められています。また、2023 年 4 月 1 日に改正道路交通法が施行され、自動運転レベル 4 の公道走行が解禁されるなど、自動運転サービスの普及に向けた動きが加速しています。

BOLDLY は、「MiCa」の日本での導入および早期の公道での走行に向けて、2022 年から Auve Tech に協力し、「MiCa」の日本仕様モデルの開発を進めてきました。「MiCa」の日本仕様モデルは、車両の製造段階で BOLDLY の運行管理プラットフォーム「Dispatcher（ディスパッチャー）」に対応した機器やカメラなどを搭載しており、車両のソフトウェアと「Dispatcher」が API（Application Programming Interface）連携しているなど、「Dispatcher」ネイティブの車両です。また、日本の道路に合わせて、エストニア仕様モデルでは車体の右側に設置されているドアが、日本仕様モデルでは左側に設置されています。BOLDLY は、自治体や企業への納入を進めて、2023 年度に約 10 台の「MiCa」を日本に導入することを目指します。これにより、社会が抱える課題の解決と、自動運転レベル 4 のモビリティサービスの実現に貢献していきます。

■「MiCa」の主な特長

- ・障害物回避機能を搭載

車両に搭載した 7 台の LiDAR（ライダー）センサー*2 および 8 台のカメラで周辺環境を把握し、障害物を検知して自動で回避します。100m 以上先まで検知できる LiDAR センサーで周辺の状況を常に把握しており、経路上に障害物があった場合には、事前に設定した範囲内で回避することが可能です。

- ・急速充電が可能

急速充電モデルでは約 1 時間で充電が完了するため、1 台の車両でより長時間の運行が可能です。

- ・コンパクトな設計

全長 4.2m、全幅 1.8m、全高 2.5m とコンパクトでありながら、広々とした車内スペースを確保し、最大 8 人が快適に乗車できます。小回りが利くため、狭い道路での走行にも適しています。

- ・さまざまな天候に対応

最新のセンサーとソフトウェアを搭載し、降雪や豪雨などの環境下でも走行可能です*3。

- ・重要な機器やシステムの構成を二重化

ステアリング、ブレーキ、コンピューター、センサーなどの安全に関する全てのシステムを冗長化し、車両故障のリスクや発生を最小限に抑えます。

※1 Auve Tech 調べ（2023年5月16日時点）

※2 レーザー光を使ったセンサーの一種。レーザー光を照射して物体に当たってから跳ね返ってくるまでの時間を計測し、物体までの距離や方向を測定します。対象物までの距離の他、位置や形状まで正確に検知できます。

※3 極端な異常気象や激しい降雪などでは走行できない場合があります。

■「MiCa」の日本仕様モデル



■「MiCa」の導入などに関する問い合わせ先

SBMGRP-SBDinfo@g.softbank.co.jp

- このプレスリリースに記載されている会社名および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。
- このプレスリリースに記載されている内容、製品・サービスの価格、仕様、問い合わせ先およびその他の情報は、発表日時点のものです。これらの情報は予告なしに変更される場合があります。